

Ustekinumab Improves Active Crohn's Disease by Suppressing the T Helper 17 Pathway

井原, 勇太郎

<https://hdl.handle.net/2324/4772307>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	井原 勇太郎			
論文名	Ustekinumab Improves Active Crohn's Disease by Suppressing the T Helper 17 Pathway			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	澤 新一郎
	副査	九州大学	教授	新納 宏昭
	副査	九州大学	教授	大賀 正一

論文審査の結果の要旨

申請者らは、クローン病（CD）治療におけるウステキヌマブ（UST）療法と抗腫瘍壊死因子 α （TNF）療法のメカニズムの違いを明らかにするために、T細胞の分化と発現遺伝子の違いに着目した。活動期CD患者の末梢血単核球におけるT細胞サブセットの割合をフローサイトメトリーで解析するとともに、大腸粘膜における包括的な遺伝子発現変化を解析した。その結果、UST療法はTh1細胞ではなくTh17細胞の分化を抑制したが、抗TNF療法は抑制しなかった。また、大腸粘膜組織においてUST療法ではTh17細胞の分化にかかわる遺伝子発現変化が認められたが、抗TNF療法では認めなかった。UST療法と抗TNF療法で遺伝子発現変化は明らかに異なっており、両者の作用機序の明確な違いが示唆された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者14名であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。